

# \*一年の無病息災を願って\*



12日の参拝は前日の寒波により  
出発が危ぶまれましたが、両日とも  
風もなく穏やかな良天に恵まれ  
参拝することが出来ました。

## 初詣

1月9日、12日  
洲本市五色町「河上神社」

神社に向かう車中では久しぶりの  
外出の方もおられ窓からの風景  
を笑顔でご覧になられ、到着後全  
員で「二礼二拍手一礼」して参拝し  
てまいりました。  
年の始まりに入居者様と1年の  
健康と安全を祈願して参拝するこ  
とができ嬉しかったです。これか  
らの季節段々温かくなってきました  
出する機会増え入居者の方々の笑  
顔を見ることができのを楽しみに  
しています。

(生活援助係 坂本昌之)



みんなが健康で暮らせますように

社会福祉法人  
ひょうご聴覚障害者  
福祉事業協会

一人ひとりを大切に(人権)  
ともに生きる(共生)

<発行>  
特別養護老人ホーム  
淡路ふくろうの郷  
広報委員会

〒656-0002  
洲本市中川原町中川原28番地1  
TEL: 0799-25-8550  
FAX: 0799-25-8551

右のQRコードから  
ホームページをご覧くだ  
さい。

## とんど焼き

1月15日、地域交流会の皆さん  
にご協力いただき、お正月を彩つ  
たしめ縄や書道講座の作品等を焚  
き上げました。

とんど焼きの煙や火の粉には歳  
神様のお力が備わっているとさ  
れ、それにあたることで穢(けが)  
れが祓(はら)われ、無病息災や家  
内安全、五穀豊穰といった願いが  
かなうともいわれます。また、炎で  
焼いたお餅などを食べると健康で  
いられるという伝承もあり、それ  
にあやかってお餅とサツマイモを  
準備しました。

焚き上げを見守っていた入居者  
の皆さんは、「今年はいいい天気で良  
かったな」「あれで焼いた芋は特別  
よね」と笑顔で話され、うまく焼き  
あがった芋を召し上がり、「これは  
おいしい。元気になるわ」と大変



どんとと燃え上がる様子に笑顔の入居者

2月の別名は、如月(きさらぎ) 梅見月(うめみつき) 木の芽月(このめつき) 雪解月(ゆきげつ)  
き。そして、行事と言えば節分、立春、針供養、バレンタイン、涅槃会(ねはんえ)が行われ、冬  
から春へ季節の移り変わりを感ずる月。誕生石はアメジスト。聖徳太子が定めた冠位十二階では紫  
色は最高位。古代日本で「紫水晶」の紫は高貴な色。庶民の色は何だったのだろうか。飛鳥の庶民は、  
染付されていない天然色、土色、草木色だったという。冬季オリンピックがイタリア北部のミラノ  
市とドローミーティ山脈の麓コルティーナ・ダンペンツォで2月6日から22日まで開催される。

淡路聴覚障害者協会の

新年会に

参加



1月11日(日)、淡路聴覚障害者協会の新年会に出席しました。淡路ふくろうの郷からは吉見さま、横田さま、八木さまが出席されました。

当日は春晴れの陽気でお昼のひと時、会員の皆さまと歓談し、会食を楽しみました。

会場の南淡路休暇村は、眼下に広く福良湾と鳴門海峡が見渡せます。遠く徳島の景色にもしばらく見とれていました。

吉見さまは、新年会への出席が7年ぶりと話されています。ロビーでの集合からすぐに久しぶりの再会を喜ぶ会員の皆さまと終始笑顔で近況などお話をされていました。



横田さまは、ロビーからの眺望にとっても喜ばれ、「徳島は私の生まれた所!!子どもの頃よく泳いだ。貝をたくさん採って食べた。ミシンで仕事もした。」と

繰り返して話され、当時の思い出に浸っておいででした。会場では初めてお会いになる方も多在中でも、すぐに馴染まれる、みんなに親しまれるご性格がよく

では、順調に勝ち進み、大きな花束を受け取ると、更に笑顔いっぱいでした。

八木さまは、盲ろう通訳者と一緒に盲ろう会員さまとも交流され、時折笑顔を見せられました。

新年会の進行は、伊達会長の挨拶、会員の自己紹介、会食、催し物が続きました。

「あっち向いてホイ!」では、ヘルメットとハンマーを取り合う姿が真剣そのものでした。「あいこ」でなかなか勝負がつかず、お二人のヘトヘトの表情に大きな笑いが起きました。

私は初めての参加でした。普段、手話サークル津名でお世話になっているろう者の方々が多数お見えでした。先日のサークル新年会でも一緒にでしたが、正月早々さらに楽しむことができました。

吉見さまの仰る通り、新年会の出席はコロナ禍以降も新年のインフルエンザ感染の懸念から出席を控えていましたが、今年は無事参加することができました。

入居者さまの外出においても安全、安心をモットーに今年も春のお花見など楽しみたいと思います。

(生活援助係 酒井 英雄)

インスタ始めました!



ひょうご聴覚障害者福祉事業協会  
Instagram

フォローお願いします



# ふくろう物語 小玉 あつ子様



昭和6年5月29日生まれの93歳です。洲本市安平町で4人姉弟の1番目長女として生を受けました。

両親が、農業を営んでおりお米や野菜を作っていました。幼少期よりお手伝いをし、弟や妹のお世話も手伝っておられました。

学校を卒業後は裁縫学校にしばらく通いその後、知り合いからの紹介で安平村役場に就職。仕事をしながら実家の百姓の手伝いもされていました。

## 出会いと別れ

昭和28年、22歳の時に1つ年上の農協で勤務されていた小玉隆男さまとお見合いし結婚されました。隆男さまも安平のお生まれで、家が隣同士の幼馴染でした。そして、息

子さまを授かりました。あつ子さまから見た隆男さまは「ええ人、ゆうことなかった。優しい心の持ち主で体格もあり百姓を手伝ってくれた。あんなええ人おらん」と話されておられました。

結婚後も、役場のお仕事は続けておられ、息子さまのお話では「母はずっと仕事をしており、保育所に預けられていた。保育所が終わると、母と共に職場に戻り仕事が終わるまでそこで遊んでいた。」と語られていました。

隆男さまの体が弱く10年間闘病生活の為、一家の大黒柱としてずっと働いておられました。

小玉さまは税務課、戸籍課など色々な課で働いておられましたが、福祉事務所総務課長を最後に55歳で早期退職されました。

辞めた理由をお聞きすると「パソコン入力が難しく、指導する立場になったから」と話して下さいましたが、そのころ、「ご主人さまがガンの為他界されたことも辞めた理由の1つではないかと思いました。

仕事を辞めた後は町内会の役を務めながら百姓をして一人暮らしをされておりました。

## 趣味

幼いころから、書道をされておりました。息子さまのお話では、書道の先生をしていた。とお聞きしています。

写真の掛け軸は小玉さまが書かれたそうです。小玉さまに伺うと「そんな、大した事してへん。洲本市の展覧会に出したことはある」と恥ずかしそうに話されていましたが、毎月ある書道講座の言葉かけをするといつも遠慮されて「みるだけでいい」と話されますが、案内し少しだけ書きませんか？と職員が尋ねると、「ほなしてみよか」。いざ筆をとると雰囲気が変わります。

書き終わると、「すごく楽しかったです。また書きたいわ。誘ってくれてありがとう。うれしいよ」と喜ばれていました。

## ふくろうの郷へ

令和6年12月に自宅で転倒しているところを発見され救急搬送され圧迫骨折のため入院となりました。

その後、在宅復帰は難しいということで、ふくろうの郷に令和7年4月に山ユニットロングショート入所となりました。

令和7年6月に川ユニットへ入居となり、来てすぐは落ち着かれない様子がありましたが、職員とお話をしていくうちになじまれてきました。

とてもお話好きで他入居者さまに声をかけ優しく語りかけてくださいます。ろう者とのコミュニケーションは身振り口話を見て相手が伝えたいことを理解されている様子も見られます。職員に対しても「いつもありがとうございます。」「うれしいよ」と支援後必ず笑顔でお言葉を掛けてくださり温かい気持ちになります。

小玉さまは遠慮されることもあるのですが、お気持ちに添いながら、色々な講座や行事に参加していただき、他入居者さまとの関わりを持っていただき、楽しく過ごしていただけるよう工夫し職員一同支援してまいります。

(生活援助係 須藤真奈美)



淡路ふくろうの郷 生活の様子



★福笑い



★書道講座 初夢、福寿、南天、大吉などを書きました。



★絵手紙 節分や立春に  
ちなんだ絵を描きました。



2月ふくろうの暮らし

- 2/1(日) 節分
- 2/2(月) ふくろう理髪店、巻き寿司
- 2/3(火) 演劇講座
- 2/4(水) 誕生日会
- 2/11(水) 手話講座
- 2/14(土) 回想法
- 2/17(火) 絵手紙講座
- 2/18(水) 喫茶
- 2/21(土) 書道講座
- 2/25(水) 料理講座
- 2/28(土) ちぎり絵



淡路町民センター

センター便り

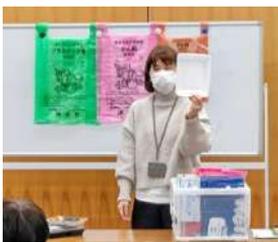
洲本市港 2-26  
洲本市健康福祉館 3階

第8回社会生活教室  
墓じまい・ゴミの分別方法



1月26日(月)  
洲本市健康福祉館  
参加者: 17人

洲本市生活環境課の小田方法を現物で具体的に説明し、中山氏にお話いただきまてくれ、いかにしてゴミの量を減らしていくか、また、資源の再生利用について考えてほしいと話がありました。



★白トレーは貴重な資源です、と中山氏

処罰の対象になるとの話があが、プラスチックごみとして再生できりだが不安だった、墓地を や田畑にお墓を建てる場合も紙の判別の仕方、油汚れの後々のことが心配だった、 買ったがそのままの状態。 買ったがそのままの状態。 入れ工夫している、限りある 資源を大切にしていきたいと 話されていました。(瀬田)

ゴミも大切な資源です

燃えるゴミやプラスチック、生ごみの種類や分別方法

について説明があり、処分の

源の再生利用について考えて

墓の移動は市等の許可を

まず小田氏から墓じまいに

ついて、お骨を別の場所に移

す場合は家族や親族で話し合

いをしていくことが前提で、

墓地がある役所の改葬許可申

請、墓地管理者の証明、移動

先の受け入れ許可など法律に

午後は参加者で意見交換。

ごみは業者に集荷を頼むこ

原聖人さん(61歳)宅訪 もに恵まれ、娘は大学、

間。原さんはイランで生ま 息子は大学院を修了、

れ育ちました。病気が原因 2人とも結婚され、今

で聞こえなくなり、聞こえ はご夫婦で暮らされてい

る学校、ろう学校を経て仕 ます。原さんは長年塗装

事に就きました。また、バ 工として働いていました

レーボールが得意でイラン が、今は仕事を辞め、働

の代表選手として世界大会 いている妻を支えるべく

やニュージールランドで開催 家事や妻のお弁当作りを

されたデフリンピックで銅 頑張っておられます。

メダルを獲得した経験もお 原さんは何かと

持ちです。1991年世界ろう者 器用で、自宅の内

会議が日本で開催されたの 装や庭のレンガ積

を機に来日され、現在35年 などもされ、友

目になります。 人からの相談があ

結婚もされ、2人の子ど っても気さくに手



家庭訪問 津名地区



★自ら内装や庭作りを 手掛けた自宅前で



★身近な問題でもあり たくさん意見が出され ました



# 中川原 地域ふれあい便り

発行団体 : 中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター運営委員会  
住所 : 〒656-0002 洲本市中川原町中川原 222-2  
TEL:0799-28-0990 又は 28-0991 FAX:0799-28-0992

🌸 皆さま 今年もよろしくお祈いします 🌸

初詣、お年玉をかけたピンゴゲーム、書初めなど、デイサービスでのお正月を楽しまれました



洲本市社会福祉協議会のチェリーズの皆さんによる おめでたい南京玉すだれ！！



## デイサービス桜ヶ丘へ来られませんか？

	月	火	水	木	金
ご利用いただける曜日	×	○	○	○	○
入浴いただける曜日	×	○	○	○	○

お問合せお待ちしております！ 0799-28-0993 担当:吉川

地域外での木枝剪定  
作業を実施しました

地域外支援として、1月14日から3日間、洲本市在住のN様より依頼を受け、木枝の剪定作業を行いました。

高所の枝切りは職員が担当し、切り落とした枝を規定の長さに裁断する作業を利用者の皆さんにお願いして進めました。



作業中は、頭上から枝が落ちる可能性があるため木の下に近づかないこと、また敷地外の道路は交通量が多いため外に出ないことなど、安全面に十分注意して取り組みました。その結果、事故もなく無事に作業を終えることができました。

今後も、中川原町以外からのご依頼についても、日程や作業内容を相談し、可能な範囲でお受けしていきたいと考えています。

(おのころの家職員 矢田)

兵庫県ろうあ者新年大会  
で焼き菓子販売しました

1月18日(日)、神戸市文化ホールにて「第53回兵庫県ろうあ者新年大会兼成人祝いの集い」が開催され、焼き菓子の販売を行いました。開場と同時に多くのお客様が来られ、順調に売れ行きが伸び、昼食後には完売となりました。

また、同じ場所では淡路聴力障害者協会の柏木智之さんの人生をまとめた冊子も販売され、袋詰めなどの作業をお手伝いいただきました。



午後の記念公演では、ろう俳優・忍足亜紀子氏が登壇され、生い立ちや現在に至るまでの歩み、苦労や悩みについて語られました。新成人の皆さんにも心に響く内容だったと思います。

来年の開催地は淡路となります。今年は約750名の参加があったとのこと、来年も多くのの方々にお越しいただけることを願っています。私たちも、たくさんの焼き菓子を準備して皆さまをお迎えしたいと思います。

(おのころの家職員 藤本)

地域のみなさまへ

おのころの家では、玉ねぎ作りや除草作業に使う農機具のうち、使わなくなったものを譲っていただける方を探しています。管理機・播種機・掘り取り機・モア機等、ご家庭や倉庫で眠っている機械がありましたら、農業班までお気軽にご連絡ください。

連絡先:おのころの家 TEL0799-28-0995

「島根県松江市の  
お人形作り」



1月26日(月)の今年最初のレク活動では、島根県の松江人形作りを行いました。和紙や千代紙を順に貼って着物を作り、髪を付け、最後に土台とかまぼこ板を固定して完成させました。

材料は先生がパーツごとに準備してくださっており、参加者は貼り付け作業に集中して取り組まれていました。小さな紙をボンドで貼る工程は難しく、苦戦する様子も見られましたが、完成すると「かわいい」「作ってよかった」と笑顔が見られました。

来月のレク活動も楽しみにされている様子でした。

(おのころの家職員 東田)

# 神戸長田ふくろうの杜

兵庫県神戸市長田区神楽町5丁目3の14の1  
〒653-0836 電話：078 798 7940  
FAX：078 798 7941

## 虐待防止・身体拘束防止研修

一月十一日(日)に神戸事業所の全事業の職員対象で「虐待防止・身体拘束防止研修」を行いました。虐待防止研修は年2回、身体拘束研修は年1回必須で行わなければならない研修です。

まずは、身体拘束防止についての座学から始めました。身体拘束というと、病院などで点滴を抜かないように手足を縛ったり鍵のかかった部屋に閉じ込めたりといったイメージがありますが、通所施設で身体拘束はあるのかと疑問に思いかもしれません。ですが、身体拘束は言葉で行動を抑制することも含まれます。転倒が心配な方には一人で行こうとすると「危ないから座って！」と声をかけてしまいます。しかし、本人にとっては行動を抑制されたと思うかもしれません。そうした課題は簡単には解決しないかもしれません。

しかし、まずは施設として身体拘束はしないと方針を決め、職員同士でどうしたらいいかと話をするのが大切です。目に見える拘束だけではな

く、心を押さえつけない支援を考えていくことが大切です。

後半は、虐待防止について事例検討をグループワークで行いました。

テーマは、夫から暴言や暴力を受けた妻(利用者)から相談を受けたときにどんな支援ができるかです。家庭のことなのでどこまで踏み込んでいいのか?利用者は離れたと言っているが離婚したいという意味なのか?夫への支援はされているのか?などいろんな角度から考えていくことが大切です。

事業所の職員としては本人に目を向けることを重要視してしまいますが、家族も含めた支援を多職種多事業所でチームを作り支援していくことが大切です。神戸事業所も多職種他事業所があり、お互いに協力しながら利用者支援を考えていく必要があると学びました。

〈B型・生活介護管理者 竹原哲章〉



グループワークの後、各グループの報告を聞くのも勉強です!!

## おっきい本棚がやってきた!

### くひょうご聴障ネット支援金

放課後等デイサービスふくろうは現在は、神戸聴覚特別支援学校や神戸祇園小学校、難聴学級、また地域の小学校などに在籍する子どもたちが利用しています。

学校から帰ってくると、まず宿題をしてからおやつを食べ、そのあとは自主的な取り組みをしてもらっています。友だちと一緒にウノやトランプなどの卓上ゲームをしたり、お天気が良ければ公園に行けるのですが、日が落ちるのが早くなった今では、多くの時間を室内で過ごしています。その中で夢中で本を読む子どもたちがいます。



たくさん言葉と触れ合って世界を広げていこうね!



一冊ずつ丁寧に配架してくれています!

裏側はホワイトボードです!



ふくろうっこがオープンする時に多くの方から本を寄贈していただきました。折に触れシリーズ本等の寄贈もあります。いただいた本がたくさんになり、収納場所に困っていた時の本棚の寄贈に喜んでいきます。本の移動も子どもたちが積極的に手伝ってくれました。無垢の木の香りに癒されながら読書するのは清々しいです。

大切に使用させていただきます。ありがとうございます! (放課後等デイサービス ふくろうっこ)